

島名境松遺跡（しまなさかいまついせき）

所在地：つくば市島名字境松3764番地2ほか

調査期間：令和元年11月1日～令和2年3月31日

調査面積：10,124㎡

委託者：茨城県土浦土木事務所つくば支所

事業名：島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（つくば島名事務所）

TEL:029-225-6587

<http://www.ibaraki-maibun.org>

1. 遺跡の立地

島名境松遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高23mの台地上に立地しています。周辺には島名一町田遺跡、島名前野東遺跡、島名榎内古墳群、島名八幡前遺跡が所在しています。当遺跡は、これまでの調査から旧石器時代から古墳時代までの複合遺跡として知られています。



島名境松遺跡と周辺の遺跡

（「いばらきデジタルマップ」一部加筆）

2. 調査の概要

当遺跡の調査は、平成12・15・30年度に続いて今回で4回目です。

主な遺構は、縄文時代中期（約4,000年前）と古墳時代後期（約1,400年前）の竪穴建物跡や、縄文時代中期の円筒状の土坑などが確認されています。

主な遺物は、縄文土器の深鉢、石器の石鏃・石皿・凹石・磨石・敲石・打製石斧、磨製石斧、土師器の坏・高坏・埴・甕などです。古墳時代後期の竪穴建物跡からは、焼成が良く、脚部に透かし孔が入った須恵器の高坏が出土しました。



中央部に掘りくぼめられた炉をもつ
縄文時代の竪穴建物跡

3. 調査の成果

今回の調査によって縄文時代中期と古墳時代後期の集落跡を確認しました。

縄文時代の遺構は密集していないことから、この時期にみられる一般的な集落跡であったものと考えられます。多くの縄文時代の竪穴建物跡からは、中央部の床を深く掘りくぼめた地床炉が確認できました。炉は、土中の奥深くまで真っ赤に焼けています。狩猟等に関連する石器も出土していることを併せて考えると、当地に生活していた縄文時代の人々は、豊かな自然の恵みを受けながら、ここで狩猟や採集による生活を営んでいたことが想定されます。

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。引用・掲載はご遠慮願います。

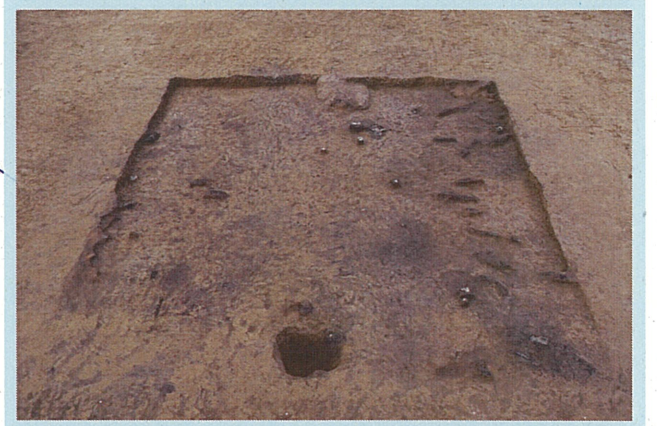




底面から土器片が多量に出土した土坑
(第 1433 号土坑)



底面に柱穴状の掘り込みが確認できた円筒状土坑
(第 1361 号土坑)



炭化材や焼土が出土した古墳時代の竪穴建物跡
(第 114 号竪穴建物跡)



竪穴建物跡の床面から逆位で出土した須恵器の高坏
(第 114 号竪穴建物跡)



掘りくぼめられた炉をもつ縄文時代の竪穴建物跡
(第 116 号竪穴建物跡)

本日の午後 1 時 30 分から、坂東事務所・談義所遺跡で第 5 回発掘調査遺跡現地説明会を開催いたします。たくさんのご参加をお待ちしております。

